防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 81 号(2013. 12. 1)
事務局川西地区自主防災会

学校で学んだ子どもが、地域を変える

～ 防災感覚は、小学校時代に育てるべき ～

三豊市立仁尾小学校
校長　山下昌茂

１　はじめに

東日本大震災から２年が経つ。全国の人々があれほど辛い思いをしたというのに、日本はもう次の巨大地震の心配をしなくてはならない時期に来ている。２５年後・・その前後に、同様の巨大地震の発生が高い確率で予想されている。２５年後というと、今、目の前の子どもたちが３５歳前後の年になる。結婚をして家庭をもち、小学校に通うくらいの子どもがいるだろうか。おそらく両親は高齢で、家族では中心となり、責任ある立場にあるだろう。また、地域においても、働き手の中心となって活躍している一番逞しく、一番元気な時期（年齢）となっている頃‥となる。

そんな状況に置かれる目の前の子どもたちの将来を思うとき、感覚豊かなこの時期にこそ、指導しておくべきことが２つあると考える。１つは、地震による被害を最小限に減らしていく減災の知識。自分を含め、家族の安全・命を守る知恵である。２つ目は、被害にあった近所や地域の人までも救おうとする、他者を思う奉仕の心の高まり(ボランティア精神の向上)と実践力である。このような知識と心・実践力、特に、後者の心・実践力については、大人になってから育てることは難しく、子どもの頃に培うべき大切な感覚（資質・能力）であり、禁煙教育・性教育等のような未来教育の１つと考えている。

つどじま
学校だより NO. 101
平成２４年１月２７日
三豊市立仁尾小学校
＜文責；山下＞

日曜参観日「防災訓練」の概要
一読の上、動きのイメージを
寒い時期ですが、命を守るためです。

登　校	○ 児童は軽く小さなナップサック、又は、手さげ袋等に１時間目の準備と、おにぎりを入れて登校（おにぎり・・家族が持参でも可。無くても可。） ○ 服装は、冬の体操服の上に防寒用の服を着て登校（寒くないように）
8:00 朝の活動	○ 児童は児童玄関で活動班を確認し、色テープを服に貼付 ○ 保護者は上靴（おにぎり）を持参し、体育館で受付（上靴なければ学校スリッパ） ○ 保護者は体育館で自分の活動班を確認し、色テープを服に貼付
8:20 参観授業	○ 児童は算数を中心とした授業で力を発揮（各教室） ○ 保護者は参観（教室に入って静かに参観・授業終了までにトイレ済）
9:05 訓練前指導	○ 児童はトイレを済ませ、下靴（＋おにぎり）等の袋を準備して着席 ○ 保護者は、教室に居る我が子(できれば学年下の子)の側に付いて待機
9:20 地震発生	○ 児童は非常の放送指示で机下にもぐる ○ 保護者は我が子の側でしゃがみ込む　（担任の指示に従う）
9:21 避難開始	○ 児童は廊下に並び、親と共に決められたコースを移動して体育館に避難 ○ 集合場所の体育館では、来た順に活動班毎に整列（土足で・無言で・安全に）
9:30 開会式・講演	○ 体育館に避難した隊形で研修（川西地区自主防災会々長　岩崎氏　講話） ○ おにぎり・上靴等の荷物を所定の場所にかためて置く（家族毎に１袋で）
10:20 訓　練	○ 班毎のプラカードを目印に、１０種の中の第１訓練場所に集合（運動場） ○ 一斉の号令により、１０分毎に時計回りに移動し、全内容を体験する ○ １つの活動班が７５名前後の大勢であるため、指導者の指示に従う ○ 卒業する６年児童を優先した体験とする　（全員の直接体験は困難。見学も訓練。）
12:15 炊き出し昼食	○ 各班で食事場所を決め、班員を集合させる　（広場・体育館等） ○ 班毎の代表６名が、豚汁を受け取りに行く（つぎ分けた食缶で受け取る） ○ 配膳して食事開始（体育館にあるおにぎりを取る・豚汁だけの昼食も可） ○ 指示に従って片づけまで終われば、自由に休憩
＊昼食の状況による午後からの時刻変更有り（放送連絡に注意）	
13:00 学習発表	○ 最初に体育館に避難した隊形で研修（６年代表者による防災学習報告）
13:30 閉会式	○ 講評・挨拶 ○ 閉会式終了後、児童は先に自治会別教室に移動。　保護者は一旦待機。
13:40 引取訓練	○ 保護者は児童が待つ自治会別教室に行き、我が子を引き取った後、下校 ○ ６年は引き続き学級懇談会があるため、６年在籍家族優先の引取訓練
＊６年保護者；学級懇談会　＊６年児童・PTA役員；片づけ手伝い	

お願い　＊裏面参照
総数750名をこえる参加者となりました。また、初の訓練でもあるため混乱が予想されます。さらに、当日雨天の場合は、案内と異なる動きになり、さらなる混乱が予想されます。主旨を理解の上、指示に従ってください。皆で一緒に考える意識をもち、子どもの手本として行動してください。　駐車場は確保できません。　上靴持参の呼びかけは、スリッパでの移動事故防止のためです。　＊多くの不備が予想されますが、御協力を！

２　初回となる大規模訓練の実施

上述のようなことから私は、前任校の豊中町で校長になった３年目の平成２２年度（今から３年前）に、学校行事として、地震に対する大規模な地域防災訓練を実施した。地域や、地域外の自主防災組織等の賛同・協力もあり、１回目であったが、児童数１２０を含む４５０名参加の充実したものとなった。そして平成２３年度、仁尾町の本校へ赴任した。本町は、海と山に面しており、公共施設が多く位置する中心地においては海抜が低く、また、山沿いにおいても土砂崩れの危険性が高いとされる地域である。前任校以上に地域をあげての

防災訓練の必要性の高い校区であると感じるが、これまでにその実態は無かった。

３　平成２３年度の実践（仁尾小勤務１年目）

赴任時、既に作成されていた本校年間計画には、２月５日が日曜参観日とあり、親子の交流活動が予定されていた。私は、ＰＴＡや本校教職員に、地理的な危険性も含め、防災訓練の早急な実施の必要性を訴えた。そして、予定されていた行事内容の変更の了解を得ることができた。

さらにその後、地元の社協（地域福祉計画実行委員会）の定期会合に飛び入り参加させてもらいながら、学校が防災訓練を実施することを発信し、それに伴う地域の理解と支援を要望した。

寒い時期ではあったが、その当日、参加者約８００名（児童数３３０名を含む）の地域防災訓練を実施することができた。それは、前任校勤務時代から支援をいただいていた丸亀市川西地区自主防災会や、地元の社協・各種関係団体等の力によることが大きい。

とくかく、本校区の地域防災訓練のスタートの年となった。嬉しく、価値あることである。

＜実践内容を学校だよりで発信＞

（１）訓練の長期的展望

川西地区自主防災会の多大な協力によって訓練は成立したが、他地域に何時までも頼ることはできない。いや、頼ってはいけないと考えた。そこで、本実践は次のように展望した。

○計画的に地元の自立へとつなぐ

１年目は、大勢が参加できる休日に計画し、訓練内容の全て（８種）を全員が体験できるようにする。２年目・３年目は、参加者をＡＢの２班に分け、種目を半分ずつにして、２年間かけてローテーションしながら丁寧に体験できるようにする。（４種×２）

４年目からは、他地域の組織による指導に頼らず、地元のリーダー主体で実施できるようにする。

（２）訓練のポイント

大人主体の活動に子供が参加する形をとると、肝心の子どもが客体となり、感覚を育てるというねらいが達成しにくいと考えた。そのため、子どもが主体となる以下の３点を意識して計画した。

○学校行事として位置付ける（主体は学校）

地域行事は、大人の活動に子どもが参加する活動になりやすい。最近の子ども会活動であっても、親が準備したものをただ食べるだけの状況が目に付く。学校主体として位置付け、教育活動の明確なねらいのもとで、子どもが主役の活動を計画する。

○子どもを先頭に活動させる

集合・移動・体験活動等の全て、子どもを先頭にする。特に移動場面においては、大人を先頭にする

と、列を作らない・歩く速さが一定しない・私語が増える等の問題が起こる。低学年であろうと、教育されている子どもたちが、素早く無言で整列する・整然と列を組んで移動する・真剣に活動する姿等を見ると、大人も真似るのである。それは、我が子の成長に喜びを感じ取るのと同時に、親として、子どもの手本でありたいと考えるからである。案の定、私語や携帯電話をいじる親の姿をほとんど見ない活動となった。

○子どもが発信・提案する場を位置付ける

例えば、教師が喫煙している父親に、「健康に悪いから禁煙してください」と言うと、争いになるだろう。しかし、学校での禁煙教育を受けた子どもが、大切な父親の健康を思い、家に帰って「タバコは健康に悪いということを今日学校で学んだよ。お父さんの命が大切だから、お父さんに何時までも元気でいて欲しいからタバコを止めて」と言うと、どうだろう。私の過去の実践でも父親の心は動いた。これは、我が子からの訴えは、成長を感じたり、自分のことを思ってくれる優しさを感じたりするからと考えられる。また、同時に、学校での教育実践のアピール・発信にもなる。

防災教育も同様に、子どもの口（言動）を通して、家庭・地域に発信させ、地域全体を変えようとした。

４　平成２４年度の実践（仁尾小勤務２年目）

１１月１８日（金）に実施した。あえて平日に開催したが、６３０名もの参加があった。訓練１年目は、１種８分間で全種目体験のローテーションだったが、２年目は全体を２班に分け、半分の種目にして１５分間ずつゆとりを持って体験する計画である。

そして、今回の訓練においても、上述した３つのポイントを意識し、子ども（学校）が主体となるよう企画・運営した。また、本年度の６年生の発信のねらいを「我が家から自治会（近所）へと、家具転倒防止対策の実践を広げる」こととした

＜安全な避難経路と避難先を発信・提案する＞

６年生の総合学習で、災害時の避難先アンケートを実施。その結果、本地区の津波予測は４ｍであったが、それよりも標高が低い公共施設を選択した家庭が多いことが判明。子どもの口から、その見直しと適切な避難施設を提案。

＜安全な避難経路と避難先を調べる子ども＞

（１）家具転倒防止対策の実践と実態

６年生は、地域へと「家具転倒防止対策の実践」を呼びかけるため、実態を調査することとなった。すると、６年生の家においては、４月の時点で１４％しか実践していないことが明らかになった。呼びかける当事者でありながら、ほとんど実践できていなかったことが課題となり、６年担任と子どもたちの取組が加速した。＜加速①＞結果として、８ヶ月後の１月には８４％まで改善した。そしてその成果を学校だよりで紹介し、ホームページにも掲載した。

（２）取組の加速①―「ためしてガッテン」の取材　国の防災対策を推進する関係者は悩んでいた。それは、いくら地震の恐さを伝えても、いくら災害による悲惨な情報を伝えても、我が国の各家庭における防災対策が進まないことである。心は動くが、行動につながらないのである。

そんな時に、本校のホームページが、ＮＨＫテレビ「ためしてガッテン」のプロデューサーの目に止まった。家具転倒防止対策が、１年内に１４％から８４％まで改善したというデータである。そして、そのことで取材を申し込まれ、承諾した。

（２）取組の加速②―「ＮＨＫ香川ニュース」の取材

実践８４％は、６年生だけの実態である。「ためしてガッテン」の放映を

つたじま

ニコニコ 学校だより NO. 107(227)

平成２４年１２月２１日
三豊市立仁尾小学校
＜文責；山下昌茂＞

「ためしてガッテン」放映！

ご覧になりましたか？　仁尾小学校区が、我が国で一番防災実践が進んだ地域というイメージで伝わりました。現実には、まだまだ…という状態だと思っています。多少オーバーな取り上げをされてしまいましたが、この放送をいい機会ととらえ、冬休み中に実践が進んで欲しいと願います。

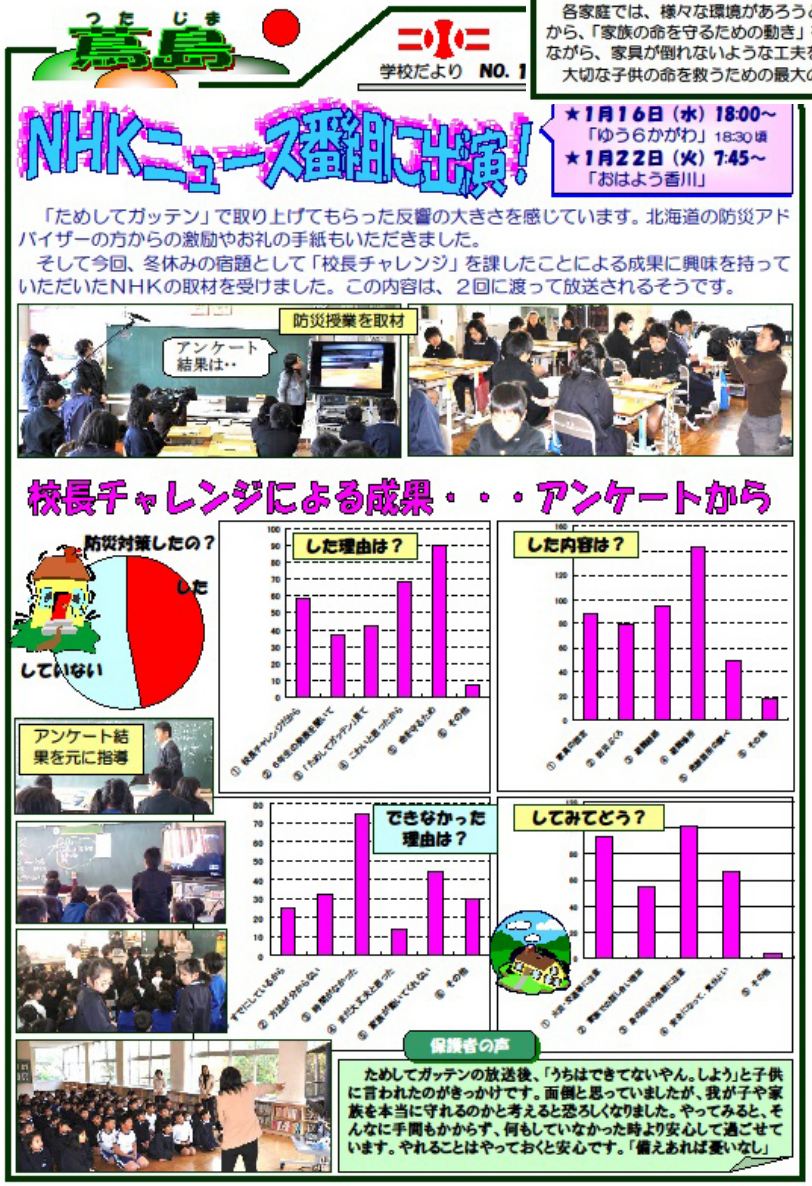
ＮＨＫのプロデューサーに「普通のことをしているのに、なぜ仁尾小なんですか？」と聞きました。すると、「全国では、普通でありません。どこでも訓練はしていますが、ねらいが見えません。家庭や地域まで変わらない訓練になっているのです。」と言っていただけました。

さらに後日、ある方から「孫に言われてテレビを見ました。素晴らしい教育ですね」との電話をいただきました。学校教育を応援していただける人の存在・・・この存在が活動のエネルギーになります。

学校で学んだ子供が、大切な親（家族）の命を思う。⇔ 親は、大切な我が子の命と成長に気付く。

命を守るための行動を起こす。

本日、校長からの宿題を出しました。
内容は、「家具を固定する」です。
各家庭では、様々な環境があろうと思いますが、１か所でもいいですから、「家族の命を守るための動き」をしてください。子供と一緒に考えながら、家具が倒れないような工夫をお願いします。
大切な子供の命を救うための最大の頑張りを見せてあげてください。



つたじま

ニコニコ 学校だより NO. 1

NHKニュース番組に出演！

★1月16日（水）18:00～「ゆう6かがわ」18:30頃
★1月22日（火）7:45～「おはよう香川」

「ためしてガッテン」で取り上げてもらった反響の大きさを感じています。北海道の防災アドバイザーの方からの激励やお礼の手紙もいただきました。

そして今回、冬休みの宿題として「校長チャレンジ」を課したことによる成果に興味を持っていただいたNHKの取材を受けました。この内容は、２回に渡って放送されるそうです。

防災授業を取材

アンケート結果は‥

校長チャレンジによる成果・・・アンケートから

防災対策したの？　した　していない

アンケート結果を元に指導

した理由は？

した内容は？

できなかった理由は？

してみてどう？

保護者の声

ためしてガッテンの放送後、「うちはできてないやん。しよう」と子供に言われたのがきっかけです。面倒と思っていましたが、我が子や家族を本当に守れるのかと考えると恐ろしくなりました。やってみると、そんなに手間もかからず、何もしていなかった時より安心して過ごせています。やれることはやっておくと安心です。「備えあれば憂いなし」

機に、校長から全校生に、家具固定を冬休みの宿題として与えた。これには、次のような４つの意図を含んでいる。

〇防災が進んでいる仁尾地域と報道されたことに対して責任意識を高め、実態をそれに近づける。

〇冬休み前には、各家庭で大掃除が行われるため、家具防止対策のチャンスが生まれる。

〇子どもの意識が高まり、先頭に立って動こうとすると、必ず家族の応援が生まれる。

〇命を守ることに関わる取組は、ある程度、強制的に指示（宿題）することが必要と考える。そして、冬休み明け

のその結果・成果に興味を持ったＮＨＫテレビ局の取材が続くこととなった。半数近くの児童の家庭で、家具の固定が進んだからである。また、地域の意識を改善するには、マスコミ報道と連携することが効果的と考え、学校だよりと通じてそのことを発信し続けることとした。

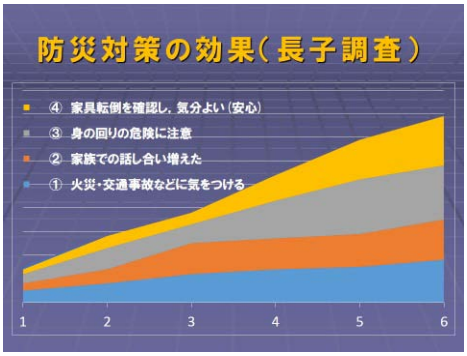
５　平成２５年度の実践（仁尾小勤務３年目）

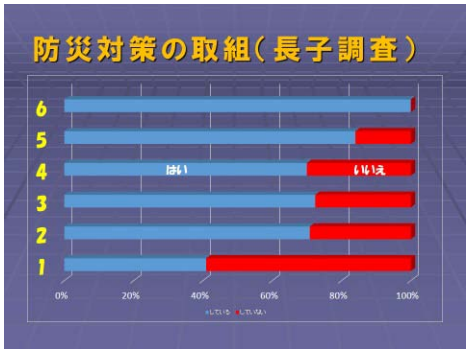
１０月３０日（水）に実施した。新たに幼稚園保護者の参加要望もあり、６６０名の参加があった。そして今回は、２回目の種目を入れ替えての体験とした。また昨年度、本地区に、町づくり推進隊が発足し、その中に安全対策部が位置付いたため、その組織（地域）と連携しながらの訓練を始めることができた。その中で、本年度の６年生の発信のねらいは「３年間の防災学習の歩み紹介と、新たな土砂災害への対策」である。これまで、海からの視点が中心であったが、土砂災害の危険地域として、本校の一部が加わったからである。海・山、そして家屋の倒壊等と、様々な視点での防災対策の必要性の発信である。

６　おわりに

以下のグラフは、家具転倒防止対策３年目となる取組状況である。また、日常生活における防災意識の実態である。　ここから、行動や意識において、卒業学年に向けての継続的な取組の成果が見て取れる。特に、知識が増えることで自然災害に対する不安が増し、怯えながら生活しているのでなく、防災対策を実践することによって、安心感を抱きながらの生活に改善されていることがうかがえる。

子どものために本気で取り組む。すると、一人、また一人と支援者が増える。気付けば、本地区で３団体、他地区の２団体からの応援をいただく恒例行事となってきた。地域の背負う子どもの成長に向けて、有り難いことである。





事務局だより

平成25年12月

かがわ自主ぼうの最近の活動を紹介します。

平成 25 年度自主防災活動・結成促進フォローアップ事業（中間報告）

･かがわ自主ぼう連絡協議会は、去る平成２５年１１月１日、高松サンポート e-とぴあ・かがわにてフォローアップ事業の中間報告を実施しました。

１．フォローアップ事業について

「共助の社会づくり支援事業（香川県）」にＨ２３年度より採択される。

Ｈ２３年は県内自主防災組織へのアンケートを行い、その結果により３段階のランク付けを実施した。

今年度は、昨年度に引き続き、かがわ自主ぼうの経験豊かなスタッフが訪問し、アドバイス、さらにはまち歩きや訓練への同行など、地域の防災力強化に向けた様々なニーズに応えている。

（１）平成２５年度の強化地域

①観音寺市　１０組織程度　②さぬき市　１０組織程度

（２）平成２４年度からの継続フォロー地域

①高松市　５～１０組織　②坂出市　７～１０組織

③三豊市　３～５組織　④琴平町　３～５組織

⑤まんのう町　３～５組織　⑥綾川町　３～５組織

（３）平成 25 年度の新規エリア

①宇多津町　３～５組織

②小豆島町　３～５組織

7 月 21 日観音寺市大野原町落合地区防災訓練

２．活動報告

（１）訪問組織数：３１組織

地区	訪問組織数	地区	訪問組織数
高松市	1	琴平町	1
観音寺市	9	まんのう町	2
さぬき市	8	小豆島町	5
坂出市	1	宇多津町	1
三豊市	2	綾川町	1

7 月 3 日さぬき市フォローアップ打ち合わせ

（２）フォローアップ活動の様子

８月３日　観音寺市豊浜町関谷地区防災マップ作製

避難ルートを事前検証し、危険個所などを洗い出し、これをもとに各班ごとに防災マップを作製

７月２１日　大野原町落合地区防災訓練

ロープ投げ訓練

ひもの結び方訓練

ＡＥＤによる心肺蘇生訓練

傷の応急措置訓練

編集後記

今月の防災減災の輪は、三豊市立仁尾小学校　校長山下様より原稿をお寄せいただきました。誠にありがとうございました。